

2024年（令和六年） 7月5日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（6月27日～7月3日）の国際石油市場は、イスラエルとレバノンのシーア派武装組織ヒズボラの戦闘が激化、パレスチナ紛争の拡大、産油国への波及が懸念される中、米国を中心に、北半球の夏の行楽シーズンに伴う石油需要増加期待の高まりで、引き続き、反発と反落を繰り返しつつも、堅調に推移した。NYのWTI原油先物市場は、27日、続伸の81.74ドルで始まり、週間で2ドル近く上昇、80ドル前半の水準で、3日、83.88ドルで終わった。

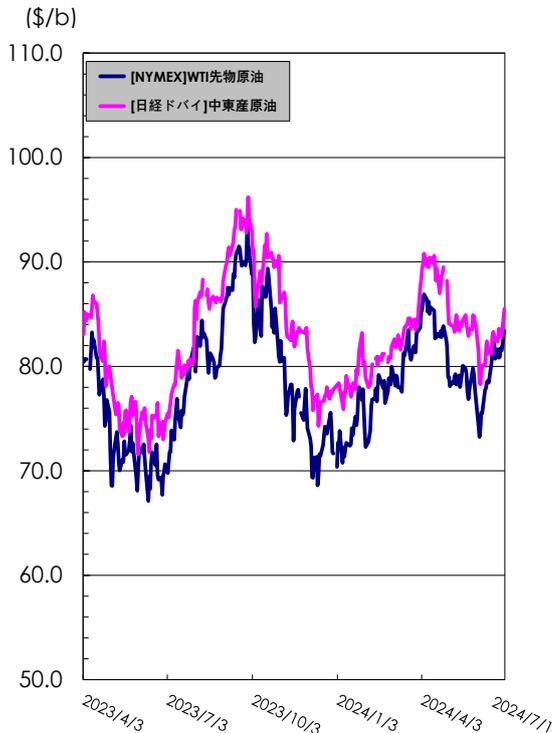
また、中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月20日～26日）82.40～83.60ドルの範囲で推移したが、当週は、6月27日83.20ドル、28日82.90ドル、7月1日85.50ドル、2日86.60ドル、3日86.50ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（6月20～26日）158.16～159.88円の範囲で推移したが、当週は、6月27日160.78円、28日161.07円、6月1日161.23円、2日161.71円、3日161.61円となった。

財務省が6月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格86,912円で前旬比10円安、ドル建て88.31ドルで前旬比0.64ドル安、為替レートは1ドル/156.48円。

そのような中で、7月1日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.8円高、軽油も同0.8円高、灯油も同8円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.6円となった。7月4日～10日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は28.4円（補助金がない場合の次週予想価格203.2円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は18.2円）となった。

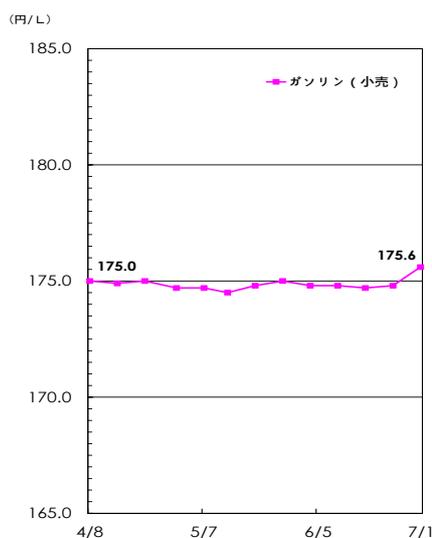
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/23～6/29	2,102 ▼ -175	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	58.5 ▼ -4.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/29	10,016 ▲ 100	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	7/1	85.50 ▲ 3.10	▲ 10.0
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/1	83.38 ▲ 1.75	▲ 13.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	88.31 ▼ -0.64	▲ 6.17
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	86,912 ▼ -10	▲ 14,955
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	156.48 ▼ -1.12	▼ -17.21
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/1	162.23 ▼ -1.35	▼ -16.72



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/23 ~ 6/29	661 ▼ -111	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	703 ▼ -35	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -67	▼ -
	在庫	6/29	1,798 ▼ -42	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/25 ~ 7/1	83.0 ➡ 0.0	▲ 4.0
		(TOCOM/中部) 7/1	82.5 ➡ 0.0	▲ 3.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/1	175.6 ▲ 0.8	▲ 3.1

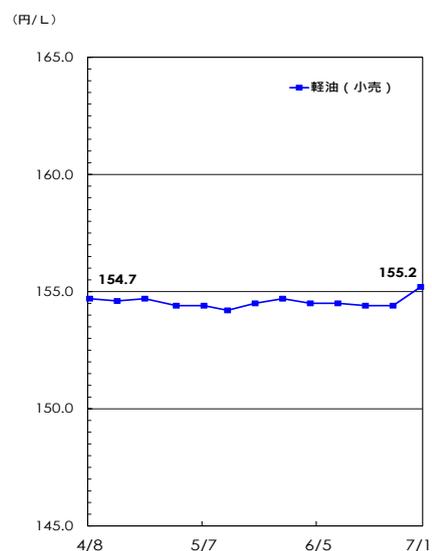
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

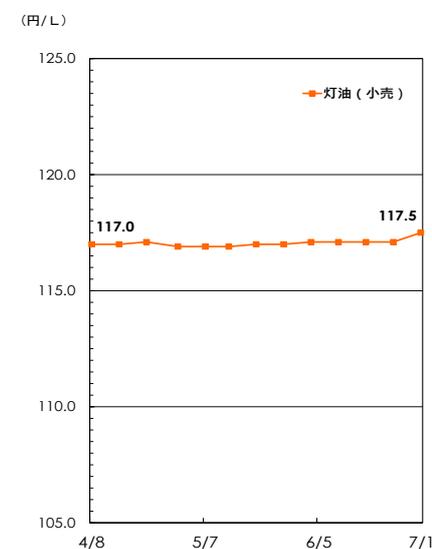
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/23 ~ 6/29	663 ▼ -57	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	586 ▲ 49	▲ -
	輸出	"	126 ▼ -136	▲ -
	在庫	6/29	1,513 ▼ -48	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/25 ~ 7/1	84.5 ▲ 0.4	▲ 1.9
		(TOCOM/中部) 7/1	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/1	155.2 ▲ 0.8	▲ 3.0

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/23 ~ 6/29	70 ▲ 17	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	-5 ▼ -66	▼ -
	輸出	"	36 ▲ 36	▲ -
	在庫	6/29	1,734 ▲ 39	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/25 ~ 7/1	81.5 ➡ 0.0	▲ 3.5
		(TOCOM/中部) 7/1	83.0 ➡ 0.0	▲ 1.4
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/1	117.5 ▲ 0.4	▲ 4.1



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(6/20~6/26)のNYMEX・WTI先物市場は80.73~82.17ドルの範囲で推移した。

当週、6月27日は、イスラエルによるレバノンのヒズボラ攻撃が激化、紛争の中東全域への拡大が懸念され、続伸した。ただ、前日の米国石油在庫の予想外の積み増し発表が、需給緩和感を増し、上値をおさえた。8月物終値は、前日比0.84ドル高の81.74ドル。

週末28日は、イスラエルのヒズボラ攻撃で、朝方一時上昇したものの、その後は、期末の利益確定売りや需要期入りにもかかわらず米国ガソリン需要の低調さへの嫌気で、3日ぶりに反落した。8月物終値は、同0.20ドル安の81.54ドル。

週明け7月1日は、シーア派武装組織ヒズボラのイスラエルへの本格反撃、今夏のエアコン使用等による石油需要増加予想、発達中のハリケーンのメキシコ湾接近懸念で、大幅に反発、4月下旬以来約2か月ぶりの高値を記録した。8月物終値は同1.84ドル高の83.38ドル。

2日は、ハリケーン襲来観測が後退、最近の高値に伴う利益確定売りも重なり、反落した。8月物終値は、同0.57ドル安の82.81ドル。

3日は、独立記念日の休日を前に薄商いの中、朝方、米国の軟調な経済指標に伴い弱含みで始まったものの、米国石油在庫報告が予想以上の取り崩しで、先行き需要増加予想が膨らみ、反発した。8月物終値は、同1.07ドル高の83.88ドル。

2 海外/米国石油市場

7月3日発表の6月28日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比1220万バレル減と市場予想(同70万バレル減)を大幅に上回る取り崩し、ガソリン在庫も同220万バレル減(市場予想:同130万バレル減)、中間留分在庫は同150万バレル減(市場予想:同120万バレル減)と、需要期入りに伴う堅調さを感じさせる結果であった。

EIAによると、7月1日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.1セント高の1ガロン3.479ドル(148.9円/ℓ)と3週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.4セント高の1ガロン3.813ドル(163.2円/ℓ)と3週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、6月28日時点で、前週比6基の479基と5週連続で減少した。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年6月23日~6月29日に休止したトッパー能力は91.6万バレル/日で、前週に対して23.9万バレル/日増加した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は210.2万klと、前週に比べ17.5万kl減少。前年に対しては50.8万klの減少。トッパー稼働率は58.5%と前週に対して4.8ポイントの減少、前年に対しては11.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/14.4%減、ジェット/32.8%減、灯油/32.8%増、軽油/7.9%減、A重油/2.2%減、C重油/2.3%増。今週のC重油の輸入は0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は12.6万kl(前週比13.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は70.3万kl(対前週4.8%減)と2週連続で減少した。ジェット4.6万kl(対前週37.1%減)、灯油-0.5万kl(対前週107.4%減)、軽油58.6万kl(対前週9.1%増)、A重油15.3万kl(対前週7.7%減)、C重油15.2万kl(対前週52.4%増)。

(単位:千L)

	今週 (6/23 ~ 6/29)	前週 (6/16 ~ 6/22)	前週比
ガソリン	703	738	▼ -35 (-5%)
ジェット燃料	46	73	▼ -27 (-37%)
灯油	-5	61	▼ -66 (-108%)
軽油	586	537	▲ 49 (9%)
A重油	153	165	▼ -12 (-7%)
C重油	152	100	▲ 52 (52%)
合計	1,635	1,674	▼ -39 (-2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

6月29日時点の在庫は灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは179.8万kl、前週差4.2万kl減。前年に対しては21.2万kl多い。

灯油は173.4万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては17.4万kl多い。

軽油は151.3万kl、前週差4.8万kl減。前年に対しては6.9万kl多い。

A重油は76.2万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては6.2万kl多い。

C重油は179.1万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては16.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/29)	前週 (6/22)	前週比
ガソリン	1,798	1,840	▼ -42 (-2%)
ジェット燃料	731	756	▼ -25 (-3%)
灯油	1,734	1,695	▲ 39 (2%)
軽油	1,513	1,561	▼ -48 (-3%)
A重油	762	751	▲ 11 (1%)
C重油	1,791	1,831	▼ -40 (-2%)
合計	8,329	8,434	▼ -105 (-1.2%)

5 国内/元売会社製品卸価格

6月25日～7月1日のドル建て中東原油価格は値上がり、為替レートも円安で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げしたものが見られる。補助金は増額されたものの、7/4～7/10の実質卸価格は値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

7月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円高の175.6円、軽油も同0.8円高の155.2円、灯油も18%ベースで同8円高の117.5円(1%ベースでも同0.4円高の117.5円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も5週ぶりの値上がり、灯油は4週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが45都道府県、横ばいは1県、値下がりが1県だった。全国最安値は岩手県の169.6円、その次は岡山県の170.2円であった。他方、最高値は長野県の186.3円。最も値上がりしたのは愛知県(同2.7円高)、最も値下がりは佐賀県(同1.6円安)だった。

次回調査時(7/8)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/1)	前週 (6/24)	前週比	直近高値
レギュラー	175.6	174.8	▲ 0.8	23/9/4 186.5
灯油	117.5	117.1	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	155.2	154.4	▲ 0.8	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第14号) の公表は、7/12 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。